

道路ユーザーネットワーク広場

NETWORK NETWORK



大阪のYさん。タンデムシートには8年もお供をしている忠犬柴犬の「ジャック」。もちろん超人気者!



湖西市から飯綱まで330キロの旅の途中に寄って来たKさん。信州はサイクリストたちの聖地です。



12時間で63キロを往く「ウルトラオリエンテーリング・松本城一善光寺」。カフェがルートそばだったので、いつものラン仲間がいっぱい寄ってくれました。50キロ走ってこの元気よ!

熊本地震から早いもので1ヶ月。収まるどころか日本中に揺れが広がり、自然界から出された課題をひとつひとつ対処する日々が続いています。九州には親戚や友人が多いのですが、震源地の隣町に住む友人は、「ようやく車を出て家の中に入れてあげたけれど、片付けばかり。非日常が日常になると、なんだかおぼろげに落ちてくれない」「お茶を飲む瞬間だけが一瞬引き戻してくれる」と電話の向こうで溜息。一方、今まで考えられなかった地域の助け合いがたくさんあって、「有難う」の重さが今まで

と全然違う。本当にこれだけは経験しないと分からないね、とも。なんとか地震が収まって、今までの暮らしが戻りますようにと祈るばかり。阿蘇フリークだった私は、早く観光に行きたい(貢献したい!)と思うけれど、道が戻るまではもう少しかかりそう。という訳で、このGWは、九州行き予定を変更して長野(私が昨年からはめたカフエ)へ来たという方が数組いらっしゃる。私も昨年はトランと休日が重なり殆どお店に行けなかったのですが、たまにアフリカのデザート

と全然違う。本当にこれだけは経験しないと分からないね、とも。なんとか地震が収まって、今までの暮らしが戻りますようにと祈るばかり。阿蘇フリークだった私は、早く観光に行きたい(貢献したい!)と思うけれど、道が戻るまではもう少しかかりそう。という訳で、このGWは、九州行き予定を変更して長野(私が昨年からはめたカフエ)へ来たという方が数組いらっしゃる。私も昨年はトランと休日が重なり殆どお店に行けなかったのですが、たまにアフリカのデザート



1400ccで爽快と現れた川崎のOさんは、16歳から乗っている高知出身のハチキンさん。Uターニングうまっ!

三好礼子
エッセイスト・国際ラリスト
~http://www.fairytale.jp~

★三好礼子の★
ナチュラル・ロード



年一回、太平洋から日本海を走ってプロライダーが集う「SSTR」ゴールのレストハウスは大賑わい



昔より砂浜が痩せたものの、千里浜のなぎさドライブウェイは最高~パリタカのゴールを思い出す。

五百キロを軽々とこなす彼らの旅を羨しく聞いていますが、みんな個性的でカッコイイですね。キャンプ道具を積んで温泉と野宿で回る人、ETCとビデオカメラ機器を搭載してひたすら良い道を行く人。大きなバイクを軽々と扱う女性や旧車をレストアして大事に乗っている人、タンデムシートに愛犬の人(?!)、みんな太陽のような笑顔ばかり。面倒そうに思えるかも知れませんが、バイクってやっぱり旅の相棒には最適な乗り物なんです。何気ない道も晴れ舞台にしてしまおうし、出会いは無限大。一言で言うと、「贅沢な旅」を演出する小道具ならぬ、大道具。

さで、今回多かったのが、千里浜(ライダーの聖地ならぬ聖道のなぎさドライブウェイあり)で能登半島、飛騨、安房峠、松本のルートでした。たまたま私も最近車で通ったので、話に参加できて「ほっ!」。実は能登半島を自転車で回ったのも、富山から飛騨への下道も走ったのも、20年ほど前のこと。そのイメージで向かったものだから、ガガガガガガ! 無料区間が多いバイクパス(のど里山海道)や東海北陸自動車道、高山清見道路、他の高速でもいやはや驚いたこと。「道路は私に任せてなんて絶対に言えない!」と何度叫んだことでしょうか。知っているつもりだったけれど、日本はどんどん変わってしまいました。でもナビに載っていない道があったので、そこは本道に新しい道だったのでしょう。道は生きています。それもライダーや旅人の楽しみのひとつかも知れません。みんなの話も聞いています。近頃でも遠くでも、行きたいところがたくさん出てきてしまったので、そろそろバイクで旅に出ます! そろそろいつかは再び阿蘇へ向かい

都市計画の中の街路②

中国古代都城理念と街路

東洋大学国際地域学部 准教授 志摩憲寿

日本では藤原京・平城京、平安京、朝鮮半島では三國時代の高句麗・平壤、百濟、扶余、新羅・慶州、そしてベトナムのタンロンなど、中国の古代都城の影響を受けた都市は東アジア地域を中心に多くの例をあげることが出来ます。今回は「方形プランニング」を基本とする、この中国古代都城理念を探ってみたいと思います。

中国では、紀元前1800年から1500年頃の二里頭遺跡には広場を持つ都市形態が、殷墟や周王朝の遺跡には方形区画の都市遺跡が見られると言われており、これは、天は円形で、地は方形という

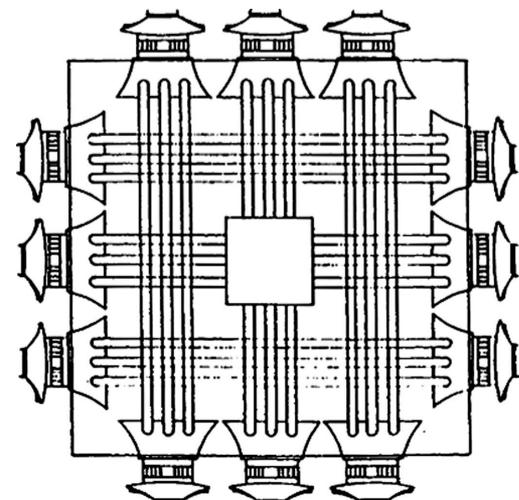
「天円地方説」に基づき、都市の中心を成す広場は諸国間の盟約の場であると考えられています。さらに、始皇帝が築いた秦(紀元前221~207年)の咸陽宮や前漢(紀元前207年~後8年)の都・長安では、これに天星信仰による天宮に象徴されたプランや北斗星信仰による北面の重視などが加わり、徐々に都城のパターンが形成されてゆくと考えられます。

こうした中国古代都城理念は、儒教の古典書である『周礼』考工記において理論付けられることになりました。周礼には、理想的な都市像は、まず、都

市構造は、1辺が9里の方形をしており、4辺それぞれに3門を置き、場内には6本の街路が通ります。また、都市施設には、城内の中央に王宮、北側に市場、南側の東に宗廟、西に土地の神などを祀る社稷、王宮の東西には一般の住宅を置くという構成で描かれています。こうした理念が都城形成へ導入されるのは、前漢末の長安の改造から始まり、その後も様々な形で採用されることとなりますが、隋(581~618年)の大興城や唐(618~907年)の長安で一つの完成形を見ることができました。ちなみに、周礼の理念に最も近いと言われるのは、時代は下り、モンゴルによる中国の征服により誕生した大都であったと言われています。

日本においても、長安をはじめとする中国の都城から多くを学びつつ、独自の計画理念を取り入れられることとなった訳です。果た

周王城のイメージ(出典:高橋(1996))



して、現在の藤原京(橿原市)、平城京(奈良市)、大和郡山(京都市)のどこに周礼に描かれた都市像を見出すことのできるでしょうか。そして、日本の計画理念はどこに見られるでしょうか。

一方、東南アジア地域の古代都市に影響を与えたのはインド型の都城理念でした。今回は、少し日本から離れますが、インドから

東南アジア諸都市の街路を紐解いてゆくと、参考文献:松行美帆子・志摩憲寿・城所哲夫(編著)(2016)「グローバル時代のアジア都市論:持続可能な都市をどうつくるか」丸善出版、高橋康夫・吉田伸之・宮本雅明・伊藤毅(編)(1993)「図集 日本都市史」東京大学出版会



ハット 思いました

四月十四日に発生した熊本を震源とする大きな地震には驚きました。同規模の揺れが二度も襲ってくるなんてビックリです。その後長期間にわたり揺れが続いています。ニュースの速報に地震発生テロップがほぼ毎日出ていました。

建物やその他の構造物自体の対策には限界もあります。道路のルートも然り。しかし臆病になっ

四月十四日に発生した熊本を震源とする大きな地震には驚きました。同規模の揺れが二度も襲ってくるなんてビックリです。その後長期間にわたり揺れが続いています。ニュースの速報に地震発生テロップがほぼ毎日出ていました。

建物やその他の構造物自体の対策には限界もあります。道路のルートも然り。しかし臆病になっ

ています。一体全体どう言う神経をしているのか? パチアタリメ! 今回の出来事があるって、日本の活断層地図を見ることが多くなり、ちょっと調べて見ると、ああ、日本中シワシワだらけで、活断層を避けて社会生活が出来るどころか、見つけられません。ほぼ毎日出ていました。

女性シワは化粧でうめられるけど、男性シワは目尻にうめられない。目尻シワは200以上あるぞ。日本には活断層というシワが200以上あるぞ。目尻シワは200以上あるぞ。日本には活断層というシワが200以上あるぞ。

一時期、コンクリートかたと言っている方もいるでしょう。農業者、工業、畜産業、観光人へという風潮があります。どちらにしても時間は止まりませんので、日々コツコツやるしかないのです。それは、コンクリートは人のための道具として不可欠なツールの一つなんです。元気が声で響き始めたことです。この声ももっと大きくと、お金を配ることじゃ配ると思わないと思うの博多どんたく、京都の葵祭、浅草三社祭など。何かしら人々のパワーが集結する時の様に感じます。また、五月は祭の多い月です。命が始まる月、新たな出発の月なのかもね。

